

新発田市 令和3年度 臨時記者会見 (1月31日開催)

1 日 時 令和4年1月31日(月) 午後3時30分～

2 場 所 ヨリネスしばた 501・502 会議室

3 内 容

【市長発表項目】

○県の保健所業務見直しに伴う新発田市の対応について

※新型コロナウイルスから「市民の命」「市民の生活」を守る

感染症・経済対策 第12弾

- 新型コロナウイルス感染症予防事業
- 公共施設のトイレ洋式化・空調改修等
- 豊浦保健センターを母子保健の拠点に改修
- 感染拡大防止協力金交付事業
- 燃油価格高騰対策緊急支援事業
- 今・得キャンペーン 飲食店事業等
- 今・得キャンペーン 宿泊プラン等

※感染症・経済対策以外

- ゲートキーパー養成研修の実施
- 令和4年度「保険者機能強化推進交付金」・「介護保険保険者努力支援交付金」
得点率 3年連続県内1位
- 北京2022パラリンピック冬季競技大会 出来島桃子選手の出場内定

【その他】

- 蔵春閣移築記念「おかえりなさい喜八郎さん祭」
- パラスポーツ出前講座
- 第7回『春RUN漫』しばたジョギング大会 in 加治川桜堤
- 假屋崎省吾 フラワーデモンストレーション&トークショー
- 新発田市明るい選挙推進「市民書初め大会」作品展
- インスタレーション(空間体験型アート) 展覧会&ワークショップ
- 春を呼ぶ生涯学習フェスティバル

あいさつ

- 午前中に臨時会を開催し可決をいただいた予算の内容について説明をしたく、お集まりいただきました。
- 大変なオミクロン株、第6波です。前々から、庁議や課長会議において、今回の第6波、オミクロン株は、従来のものとは違うので慎重に対応するよう、職員へ指示しておりました。また、議会でも答弁しております。医学的な根拠によるものではありません。政治家の勘としか言いようがないのですが、それでも、この感染流行は如何ともしがたく、市内でも学校の休校などがあり、対応に追われているところです。
- 経済対策についても、担当職員からは、経済を動かしながら、第6波、オミクロン株に対応したいという要望がありましたが、申し上げましたように、第6波はこれまでとは違う。この際、市民の皆さんはつらいだろうが、しっかりブレーキを踏まざるをえないということを指示したところです。

しかし、今後、春先になれば人の動きが出てまいりますので、それに対しては、しっかりと経済を立て直していきたいと思っています。
- 県の保健所業務が縮小されたことについては、私どもは全くあずかり知りませんでした。新聞記事で初めて知りました。少なくとも事前に、一報、協議をして欲しかったと思います。
- 対応せざるを得ませんが、私どもは保健所のように法的な根拠や制度的な裏づけが全くないので、その中で市民の命をどうやって守っていこうかということに苦慮しております。しかし、私どもは独自の抗原検査、PCR検査を既に行っており、無症状感染者の洗い出しをずっとやってきました。その在庫があるので、これを市民の皆さんにお送りして、少しでも不安解消を図りたいと思います。ソーシャルワーカーの皆さんについてはPCR検査、一般の市民の皆さんは抗原検査で対応していきます。

それでは、会見項目について説明いたします。

最初に、県の保健所業務見直しに伴う新発田市の対応について

- 市長会会長である私も、1月26日の朝刊記事で、このことを知りました。
感染者がここまで急激に増加しているので、保健所業務がひっ迫していることはよく分かります。
そう考えれば、県の判断は致し方無いということも理解できますが、もう少し踏ん張ってほしかったというのが偽らざる気持ちです。
- しかし、これだけ県民に、また、各自治体に大きな影響を与える業務の見直しについて、首長へ事前情報の提供が一切無く、いきなりマスコミに発表するという手法がどうだったかは、^{はなは}甚だ疑問であり、県の医療調整本部には猛省してほしいと思います。
- 陽性者となり、大きな不安を抱えている市民が、自分で濃厚接触者を特定し連絡することが、ましてや7日間もの自宅待機をお願いすることが、どれだけ難しいのかは誰でも容易に想像出来ます。
しかし一方で、難しいことだからといって、既に決定したことに対して、いつまでもできないと言っている場合ではありません。
- いかに市民の皆様を理解してもらい、協力をお願いできるのかだと思っています。
当市では、1月27日から市ホームページやエフエムしばたで市民の皆様呼びかけを始めております。
2月1日号の広報しばたの配付に併せて、全戸にチラシも配付し、保健所業務が見直されたこと、また、陽性者となった場合、誰に何をどう連絡するのかを出来る限り分かりやすくお伝えしたいと思っていますところです。
- 抗原検査キットは全国的に品薄となり、入荷時期が読めないという中で、保健所業務の縮小で、県内ではさらにキット争奪合戦が始まっているとの話も聞こえます。
まるで、去年のマスクのようです。
なぜ、同じことをこうも繰り返すのでしょうか。

○ 記者の皆さんは記憶力が良いので覚えている方もいると思いますが、昨年二月議会で、私は、全国の自治体に先駆け、市独自で抗原検査やPCR検査を無症状者に対し実施することを表明しました。

○ その時、県の医療調整本部は何と言ったか。

「市が勝手に検査を実施するのは、全く意味の無い事。すぐやめるべきだ。やめないのであれば、全県の会議において名指しで非難せざるを得ない。」と、かなり厳しい言葉を私にぶつけてきました。

○ しかし、今回、まさに寝耳に水の保健所業務縮小という、不測の事態において、批判の矢面にされていた、当市独自検査のために用意していた抗原検査キットが、威力を発揮してくれます。

○ 明日2月1日より、当市では、市民の皆様が、陽性者から濃厚接触者になったとの連絡を受けた時の不安を、少しでも和らげられるよう、希望者に対して、簡易抗原検査キットをお送りする取組を開始いたします。

○ 申請方法など詳細は、後程、山口戦略監から説明させますが、皆さん、ぜひ考えてほしいのです。

知人などから、いきなり濃厚接触者であると連絡を受けた本人は、熱やのどの痛みなど自覚症状などがあればこそ、かかりつけ医や県の新型コロナ受診・相談センターで受診・検査の相談ができます。

しかし、全く無症状の場合は、何の対応もされないまま7日間自宅待機を指示されるだけです。

何もしてもらえないということへの不安は計り知れません。

その不安を少しでも和らげたいし、無症状感染者となっている場合には、一刻も早く次のステップ、治療へとつなげていくために、希望者の自宅に簡易検査キットをお送りし、自ら簡易検査を行ってもらいたいと思っています。

○ もう一つの当市独自の取組についてご説明いたします。

学校、保育園や認定こども園などが、保健所の重点調査・検査の実施対象外とされたことへの対応です。

子ども達や保護者の皆様の不安を軽減するだけでなく、学びや保育の維持・継続に向けて、今私たちが出来ることを精一杯したいと思います。

- 保健所の代わりとして、濃厚接触者を特定することはできませんが、県が示した濃厚接触者の判断基準や濃厚接触の可能性が高い場面などを参考に、市長部局と市教育委員会が同じ基準で判断し、これまでも実施してきた市独自の PCR 検査を有効活用してまいります。
- また、市職員に対して、国の定めた濃厚接触者の待機期間短縮制度の活用なども含めた市の考え方など、それぞれの詳細な内容については、私の会見が終わってから、山口戦略監や鶴巻教育次長、中山人事課長を残らせるので、直接、聞いていただきたいと思います。

次に、新型コロナウイルスから、「市民の命」「市民の生活」を守る、「新発田版 感染症・経済対策 第 12 弾」について説明いたします。

初めに、新型コロナウイルス感染症予防事業について

- 現在まん延しておりますオミクロン株については、風邪のような症状で済むかたが多いとされる一方で、感染力、感染スピードの強さが指摘されております。
市内の小学校、中学校でも休校が相次いでおります。
タブレット等の活用により、可能な限り「学びの保障」を行っておりますが、子どもたちに安心して笑顔で学校生活を送ってもらうことが、一番の願いです。
- まだワクチン接種ができない子どもたちを守るためには、一層の感染防止対策、そして、集団感染を起こさない対策が必要です。
このため、小学校・中学校・保育園等の児童・生徒や教職員などに対し、抗原検査キットを配布いたします。
体調に不安がある際は躊躇^{ちゅうちよ}せず^せずにキットをお使いください。
感染症の早期発見、早期治療が、感染拡大防止のキーポイントだと思います。

- お一人おひとりにしっかりと感染防止対策をとってもらうことで、安心して学校や保育園で過ごしていただき、また、卒業式、入学式など、人生で一度限りの大切なイベントが中止、延期とならないようにしていきたいと思います。

次に、公共施設のトイレ洋式化・空調改修等について

- これまでも感染症対策として市内公共施設のトイレ洋式化、空調設備の導入や改修、水道蛇口のレバー化などを進めてまいりました。
残念ながら、感染を完全に封じ込めることができておりませんが、引き続き、できる限りにおいて、感染拡大防止に効果がある、施設の改修を進めてまいります。
- 対象の施設は、デイサービスセンター、保育園、小・中学校などです。
ウイルスに感染すると重症化の恐れがある高齢者のかたや、ワクチン接種ができていない子どもたちの命を守るため、そして施設を安心して使っていただくために、速やかに改修を進めてまいります。

次に、豊浦保健センターの改修について

- 当市ではこれまで、妊娠、出産、子育てと不安を抱えている若い世代の手助けとして、妊娠から修学前まで、一貫して一人の保健師がお付き合いをする「かかりつけ保健師制度＝日本版ネウボラ」をいち早く導入し、それぞれのご家庭に合わせた最適な保育サービスのご案内を行う「子育てコンシェルジュ」を配置するなど、安心して子育てができるまちづくりを進めてまいりました。
- 乳幼児健診など、きめ細やかな母子保健活動を行う場として、新型コロナウイルス感染症の流行発生以前は、市カルチャーセンターの隣にあります、新発田市保健センターで実施しておりました。
しかし、コロナ禍により、3つの密を避ける必要が生じたことから、臨時的措置として会場を豊浦保健センターに移して、現在は活動しているところです。

- 依然として新型コロナウイルス感染症の流行収束が見えないことや、ポストコロナを見据えても、手狭な新発田市保健センターに戻るよりも、現在の豊浦保健センターの方が活動施設として適切であると判断し、この度、正式に豊浦保健センターへ機能を移転させることとし、より安全に、そして快適に施設が利用できるよう、必要な改修を行うものです。

併せて、ワクチン接種の会場としても利用できるように改修を行います。

- これからも、出産後、そして育児のサポートを、ソフトとハードの両面でしっかりと提供いたします。

ウィズコロナの中でも、そしてポストコロナに向けても、「子育てするならやっぱり新発田」を旗印に、選ばれるまちづくりを進めてまいります。

次に、感染拡大防止協力金交付事業について

- まん延防止等重点措置の適用を受け、県から飲食店等に対し、適用期間中の営業時間短縮、酒類提供の禁止などの要請が行われ、これに協力した事業者の皆様に対し、協力金をお支払いするものです。

- しかし当市においては、ただお支払いするだけではありません。

県の要請内容を、事業者の皆様がしっかりとお守りいただいているかを、市職員と新発田商工会議所が連携して、巡回確認しているところです。

措置を実施するからには、徹底してそれを守ること、一日でも早い感染流行の収束を願っているものです。

事業者の皆様の大変辛い状況は承知しておりますが、感染拡大を防ぐために、是非ともご協力くださいますようお願いいたします。

次に、燃油価格高騰対策緊急支援事業について

- 昨年秋からの燃油価格高騰に、水稻、施設園芸農家の皆様が大変困っておられます。

大きく見れば、これもコロナの影響であり、また、コロナの影響といえば、米価の下落なども生じております。

困っている皆様に対して、市独自の支援を行います。

○ 去年の暮れには福祉の視点で、生活にお困りの皆様への灯油購入支援を行いました
が、今回はこれから最盛期を迎えるイチゴやチューリップなどの施設園芸農家、そして、雪解けから作業が始まる水稻農家の皆様に対し、燃料費の一部を助成いたします。

○ 農畜産物のブランド化、海外輸出などを通じた消費拡大、農業従事者の所得拡大を目指している本市にとって、燃油価格高騰が原因で生産者や生産量が減ってしまうことは何としても防がなければなりません。

この緊急支援は、市からのエールを送るものです。

生産者の皆様にも是非とも応えていただき、共にこの困難を乗り越えていきたいと考えております。

次に、今・得キャンペーン 飲食店事業等について

○ この度の経済対策の特徴は、国の「16か月予算」と呼ばれる積極的な財政出動を受け、来年3月までの長期に渡る支援策を、国のGo Toトラベルキャンペーンや、県の支援策などもうまく活用しながら、宿泊業・飲食業といった、すそ野の広い産業を中心とした経済対策を、すき間なく実施することで、市内経済全体を回復させていきたいというものです。

○ ここで、最も大事なポイントは「すき間なく」ということです。

これまでの国や県の動きを見ておりますと、感染の波の収まりと、経済対策開始のタイミングに、ズレが生じております。

国全体、県全体という大きな動きを見ながら、という理由があるのかもしれませんが、事業者の皆様には毎日の暮らしがあります。

新発田の事業者のことを一番知っているのは私どもです。

新発田の事業者のことを一番知っているのは私どもが、この度のまん延防止等重点

措置が解除されましたら、間髪を入れずにキャンペーンを展開いたします。

- もちろん、国や県のキャンペーンに合わせて、1人2千円の上乗せ補助を市が行い、タクシー送迎付きの日帰り飲食プランを提供するなど、事業の相乗効果、経済への波及効果が大きくなるような計画も立てております。
- また、引き続き、飲食店等の皆様に、感染防止対策を強化していただくための支援、ウィズコロナ、ポストコロナを踏まえた業態転換などへの支援など、コロナ禍で直面しておられる様々な課題に対する、きめ細かな支援も進めてまいります。
- いずれにしましても、忘年会、新年会シーズンが感染流行で振るわなかった分、年度末、年度替わりの、人が動く時期に焦点を合わせ、感染の波を見極めながら、迅速に支援を進めたいと考えております。

次に、今・得キャンペーン 宿泊プラン等について

- 感染の急拡大により、これまで県が実施してきた「使っ得！にいがた県民割キャンペーン」は1月19日から停止されております。
国のG o T oトラベルキャンペーンも実施が延期されると報道されており、月岡温泉では平日はおろか、週末でも予約が埋まらない状況が年明けから続いており、宿泊事業者の皆さんからは悲鳴にも似た切実な声をお聞きしております。
- このことから、当市では、まん延防止等重点措置の解除後に間髪を入れず、市単独の一人5,000円の宿泊割引キャンペーンをスタートできるよう担当課に指示したところです。
- また、対策の一つの方向性として、G o T oトラベルキャンペーンの日帰り旅行助成を有効に活用し、市内滞在を促すことで、連泊にも結びつける新たな取組を開始いたします。

○ 新発田市観光協会は旅行業資格を有しておりますことから、国・県が実施する日帰り旅行支援に、市として1人2,000円程度の上乗せ支援をして、ゴルフプランや飲食堪能プラン、市街地周遊プランなどを造成し、宿泊プランと併用することで、バスやタクシーの利用をはじめ、市街地回遊や土産品購入など観光消費を高めていきたいと考えております。

○ 農業、飲食業、宿泊業など、様々な業種の方が、コロナ禍によって経営に大きな影響が出ているのは明らかです。

流行発生から2年が経ち、いまだ収束が見通せないという現実に、ウイルス感染の恐ろしさを改めて感じざるを得ないところですが、ここが正念場です。

ワクチン接種や経口薬の開発などが進み、PCR検査や抗原検査も利用しやすくなっております。

コロナに立ち向かう道具はそろいつつあります。

当市としましても、できる限りの支援を引き続き行ってまいりますので、是非ともオール新発田で感染拡大防止に取り組み、一日でも早いコロナの収束を迎えたいと思っております。

続きまして、感染症・経済対策以外の項目について説明いたします。

初めに、ゲートキーパー養成研修の実施について

○ 新発田市では、平成23年6月「新発田市民のきずなを深め『いのち』を守る条例」を県内でもいち早く制定しております。

これは、私が市長に就任して最初に作った条例です。

名称が長いと思うかもしれませんが、自ら命を絶つ選択をする市民を1人でも減らすには、個人の問題ではなく、社会全体の問題として捉えることが何より重要という私の強い想いを名称に込めたものです。

官民を挙げた地道な取組により、ここ数年間、当市では、自殺者数は減少傾向に転じておりましたが、コロナ禍により状況は一変しました。

- 令和2年、全国の自殺者数は、交通事故死の5.4倍の約2万人にのぼり、特に、女性、若者の自死は、県・市いずれも増加に転じました。

また、15歳～39歳の若者世代では、残念なことに、悪性新生物を抑え自殺が死因の一位です。

これは、先進7ヶ国（G7）の中で日本だけという、大変危機的な状況であり、国の一大事と言ってもよいのではないのでしょうか。

- 女性、若者の自死は、安心・安全で住みよいまちづくり、また、持続可能なまちづくりを進めるうえでは、大変由々しきことであり、今、出来る得る限りのことをやりつくさなければなりません。

- 当市では、小・中学校で、スクールソーシャルワーカーや学校が把握する子ども達の悩み、取り巻く環境などの情報が、高校進学や就職を契機に途切れてしまうことを何とか解消したいと考え、中学卒業を控えた、配慮が必要と思われる子ども達の情報を、市教育委員会と地域担当保健師が共有する取組に着手いたしました。

高校進学は、子ども達の生活環境が大きく変わる人生初の岐路です。

わずかな^{つまづ}躓きが、長期の引き籠りに繋がるケースも多いことから、地域全体で見守り、手を差し伸べるために、まずは行動が必要です。

- 二つ目には、地域全体で見守る体制には、相談しやすい環境づくりが不可欠です。

これまでも、市の正職員・会計年度任用職員など約1,439名がゲートキーパー養成研修を受講しております。

今回は、新潟いのちの電話講演会下越支部に属する市議会議員から、議員も市民の声を聴く機会が多いので、ぜひ学んでみたいとの話をいただき、早速、2月3日(木)に研修会を開催します。

市民の命を守りたいという市の思いに、議会の皆さんが形として応えてくれたものであり、大変すばらしいことだと思っています。

また、2月16日(水)には、オンラインにより、市内の介護事業所134か所で、講師を招聘した研修会を開催します。

「守りたい新発田の命」～ワンチーム、オールしばた～に向けて、着実に歩みを進めてまいります。

- しかし、当市の取組だけでは乗り越えられない分厚い壁があります。

義務教育から高校への壁もその一つです。

また、医療機関に搬送された自殺未遂者・既遂者^{きすいしや}情報も、市町村は把握出来ないのが現状です。

県はもっと主体者として、県教育委員会や県内の医療機関から情報を収集して、市町村と共有すべきだと思っています。

- 自殺の要因は決して一つではありません。

要因が多岐に及べば及ぶほど、自死を選ばず生き抜くための支援体制も大きく構えて対応しなければなりません。

先日も花角知事にはこの話をさせてもらいましたが、まさに、今こそ、県が舵とり役となって、自殺防止に向けた新潟県民運動を起こすべき時だと思っているところです。

次に、令和4年度「保険者機能強化推進交付金」・「介護保険^{ほけんじや}保険者努力支援交付金」 得点率 3年連続県内1位について

- 市町村が行う介護保険事業は、保険料などの様々な財源で運営しておりますが、国から交付されるもののうち、「保険者機能強化推進交付金」と「介護保険^{ほけんじや}保険者努力支援交付金」という二つの交付金があります。

これらの交付金の算定には、「保険者機能強化^{ほけんじや}」、「介護予防」、「介護人材確保策」などの指標があり、市町村の取組状況に応じて点数化され、交付金が交付されております。

- この評価点数について、当市は両交付金ともに、令和2年度から3年連続県内1位となり、全国順位についても、「保険者機能強化推進交付金^{ほけんじや}」の方は、令和2年度が16位、令和3年度が19位、令和4年度が9位、そして「介護保険^{ほけんじや}保険者努力支援交

付金」の方は、令和2年度、3年度が6位、令和4年度は14位と、全国でも高い順位をキープしております。

○ 当市の場合、早くから国のモデル事業に参画するなど、「介護予防」や「高齢者の自立支援」に力を入れてきていることから、その点などが評価されているものと考えております。

○ 以前から当市では、介護保険に移行する前の国民健康保険の段階において、特定健診や特定保健指導など、健康事業に関する取組が高い評価を受けており、国保保険者努力支援交付金の県内順位は、令和元年度、2年度が2位、令和3年度が6位、令和4年度が3位と、常に上位をキープし続けてまいりました。

国保段階からの取組みが、その後の介護保険へ引き継がれていくという、プラスのサイクルが、当市ではしっかり機能してきた結果であると自負しているところです。

○ 介護の二つの交付金は、毎年それぞれ2,500万円程度交付されておりますが、来年度からは、この交付金を活用して、健康長寿アクティブプランにも掲げる「高齢者の社会参加」や「介護予防」の取組を更に充実させ、健康長寿のまちづくりを進めてまいりたいと考えているところです。

最後に、北京 2022 パラリンピック冬季競技大会 できしまももこ 出来島桃子選手の出場内定について

○ 当市在住で、新発田市スポーツ推進課主任の出来島桃子さんが、クロスカン트리ースキーとバイアスロンの日本代表選手に内定しており、JPC 日本パラリンピック委員会で正式決定されれば、冬季パラリンピック5大会連続出場となります。

○ 彼女が初めてクロスカン트리ースキーに触れたのは、平成11年3月。

市役所に採用された年の冬と聞いています。気軽な気持ちで体験会に参加したところから始まったそうです。

○ それから二十数年。公務員としても、パラノルディック選手としてもベテランの彼

女です。

2月10日には私のところへ出場報告に来るそうですので、ぜひ一つでも上位を目指し、その結果が大きな成果につながることを期待していますし、その懸命な姿で、多くの市民へ夢と感動を届けてもらうよう市民を代表して激励したいと思います。

- また、出来島選手の活躍を、市を挙げて応援するとともに、市民にパラスポーツへの関心を高めてもらうため、パブリックビューイングを計画しています。

出場競技の放送日程がまだ公表されていないため、詳細については、後日お知らせいたします。

本日お知らせする情報は以上になりますが、他にもお配りした資料のとおりイベントなどを予定しております。

報道各社の皆様におかれましては、一つでも多く記事に取り上げていただき、新発田市をご支援いただきますよう、よろしくお願いいたします。